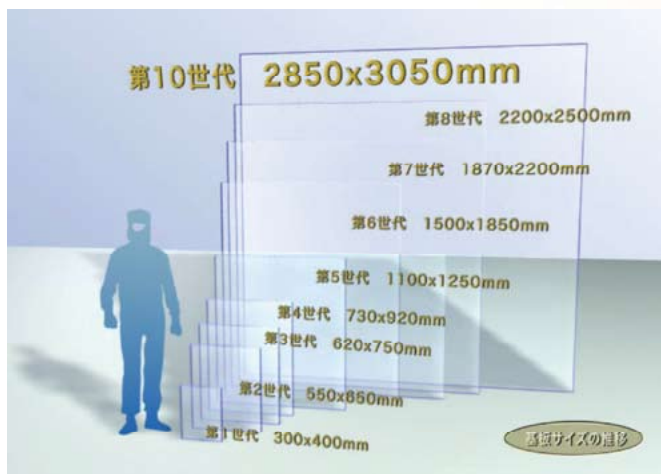


第10世代も tok がリードする。

大型パネル製造のブレイクスルーとなる 『エア浮上塗布装置』を新開発。

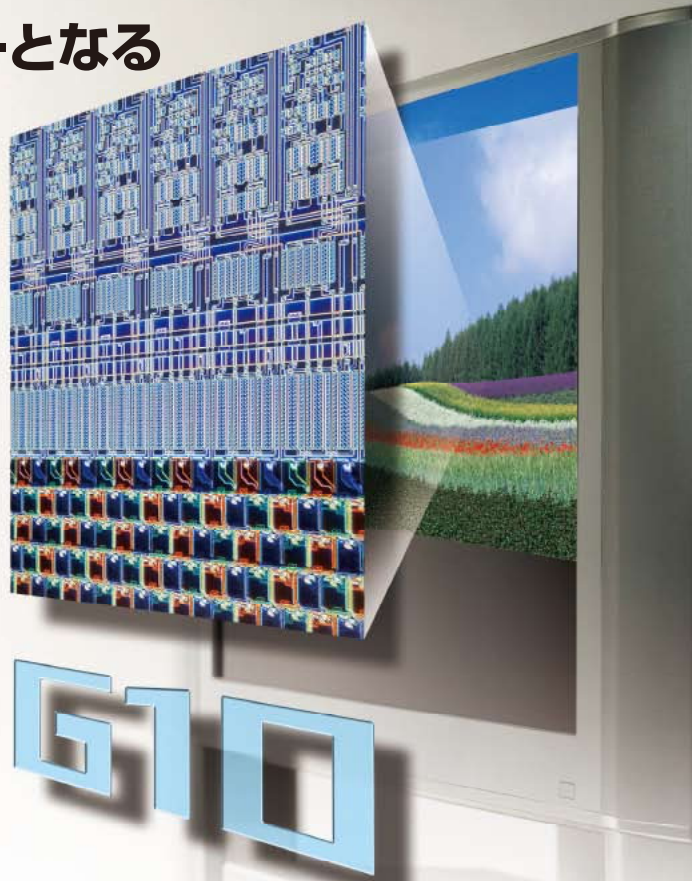
液晶パネルの大型化を支えるtokの先進テクノロジー、
エア浮上塗布装置が、FPDパネル生産効率
をさらに向上させる

FPDへの期待がますます高まるなか、今、業界の話題を席巻する第10世代のラインは、第8世代の約1.6倍となる約3m角のマザーガラスを採用し、この1枚から60型クラスのパネルが6枚、40型クラスでは、じつに15枚を取得して加工することが可能。文字どおり生産コストの低減に直結するため、FPDパネル製造ラインへの設備投資がいよいよその価値を拡大しはじめています。いち早く東京応化工業ではこの動向を捉え、このほど完成させたのが大型パネル製造のブレイクスルーとなる『FCSシリーズ』です。



『FCSシリーズ』と『スピンレス®』の2大シリーズで、
FPDパネル製造をトータルにカバー。

新開発の『FCSシリーズ』は、先進のエア浮上機能を搭載し、高度なノズル制御をはじめとする革新的なメカニズムによって塗布処理のタクトの大幅な短縮化を実現するもので、第10世代以上の大型ガラス基板に対応する新世代シリーズです。第8世代までのガラス基板はすでに塗布装置のデファクトスタンダードとして高評価を獲得している「スピンレス®」が担い、あらゆるサイズの基板製造プロセスに高効率で対応する世界最先端のラインアップを完成させました。



装置と材料の両輪戦略tok独自の『M&E』が、
FPDの大型化と高品質化に貢献

高品質の材料とその特性を最大限に活かす装置の開発力。東京応化工業は、互いの技術を高度に融合させたこの両輪展開を『M&E』戦略と名付け、半導体向け微細加工プロセス用材料で業界トップを走り続けてきました。そこで蓄積された最先端技術を結集して、私たちはいま、FPD用材料・装置の世界においてもトップメーカーへの最短距離を着実に歩んでいます。2007年からは、より高度なニーズに対応するため、相模事業所で「フラットパネルディスプレイ材料研究開発棟」を本格稼働させるなど、大型ガラス基板に対応した生産設備、評価設備をいち早く導入することによって、製品開発のスピードを加速。その成果の一つとなる『FCSシリーズ』を主軸に、新たに第10世代からはじまる大画面パネルにおいても、いっそうの高性能化と歩留まりの向上、そして低コスト化という課題に対して、世界中のパネルメーカー様に最適のソリューションを提供し続けます。



FPD向け研究開発棟



東京応化工業株式会社

■ 液晶営業部 TEL.044-435-3001
〒211-0012 川崎市中原区中丸子150

スピンレス®.net <http://spinless.net>

■ 液晶材料営業部 TEL.044-435-3002
URL <http://www.tok.co.jp>